

1 主題名 社会で他者と共に生きていくためには 【B－(9) 相互理解、寛容】

2 教材名 「ソーシャル・ビューー ー見えない人と楽しむ美術鑑賞」(光村図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値(内容項目)について

本主題は、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の内容「B 主として人との関わりに関すること (9)相互理解、寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」をねらいとしている。

人間相互理解のためには、自分の考えや意見を発信することが欠かせない。中学校3年生の段階では、人はそれぞれが違う存在であり、個性をもち、見方や考え方がそれぞれであることを理解している。しかし、自分の考えと他者の考えや意見の違いが明らかになることを恐れたり、考え方の違いによる摩擦や過剰に同調する傾向が生じたりすることがある。また、自分の考えに固執し、考えの異なる相手に対して許せない気持ちを感じたりしている。そのため、個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意思に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意思を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態(28人) 実態調査(24人 令和4年9月14日 実施)

本学級の生徒は落ち着いた態度で生活し、学習にも真剣に取り組んでいる。また、相手の気持ちを考えて行動する生徒が多い。しかし、QUアンケートの結果からも配慮スキルは高いがかわりのスキルが低い生徒が多い学習集団であることが分かった。

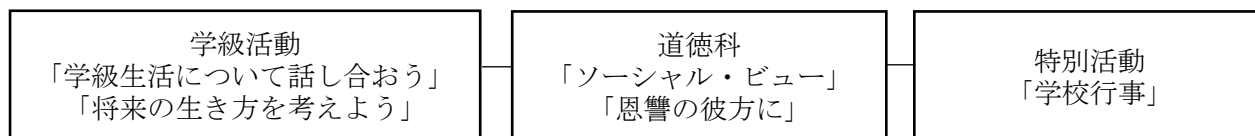
実態調査アンケート		あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
1	自分の考えや意見を友達に伝えることができる。	12人	12人	0人
2	自分の意見が周りに受け入れられていると感じている。	7人	16人	1人
3	自分とは違う意見や考え方を受け入れることができる。	17人	6人	1人
4	自分の意見や考えを相手に伝えるときに不安になる。	7人	13人	4人

実態調査の結果から、自分とは違う意見を受け入れることができるに対してあてはまると答えた生徒が多いことが分かる。相手を理解するために心がけていることについては、「相手の話を最後まで聞く」、「先入観や偏見をもたないようにする」、「相手の考えを受け止める」、「相手がなぜそう思ったのかを考える」等の回答があり、日頃から相手のことを考えて接することができる生徒が多い。しかし、自分の意見が周りに受け入れられていると感じているかという質問に対しては、少しあてはまると答えた生徒が多くなっている。授業や行事等では、半数以上の生徒が自分の考えや気持ちを表現する場になると受け入れてもらえるか不安になり、他に同調して自分の考えを表現せず、受け身の姿勢をとることがある。そこで、自分の意見や考えを受け入れてもらえたという実感に伴う経験が必要であると考え。

(3) 教材について

本教材は、目が見える人と見えない人が一緒になって美術鑑賞をする活動から、筆者が感じた面白さが描かれている。実際にソーシャル・ビューー体験をすることを通して、違いを受け入れて一緒になって楽しむことの面白さや、互いの意見を認め合うことの嬉しさを実感させたい。そこからさらに、社会に考えを広げて「一人一人の違いを生かすよさ」について考えさせるようにしていく。単に「相互に理解することはよいことだ」という考えにとどまらず、相互の違いを認め合える社会には生きやすさや安心感をもった他者との関わりがあることについて考えるとともに、その実現のために大切なことや、自分にできることに思いをはせられる授業を展開する。

4 他教科との関連 相互理解、寛容



5 本時の学習

(1) ねらい

違う個性があることによって生まれてくる豊かさやおもしろさについて考える活動を通して、互いの個性や立場を尊重し合いながらよりよく共生していこうとする道徳的实践意欲と態度を育てる。

(2) 準備・資料

- ・読み物教材「ソーシャル・ビューー ー見えない人と楽しむ美術鑑賞」
- ・ポートフォリオ
- ・タブレットPC
- ・プロジェクター

(3) 本校の研究課題である「生徒指導の機能を生かした授業づくり」のための本時の重点

〈決定〉個人で考える時間を設定することで、自分の考えをもてるようにする。

〈存在〉GWやソーシャル・ビュー体験の中で、全員が発言する機会を確保し、相槌をしながら聞き合うことで、自分の意見が価値のあるものだという実感をもつ。

〈共感〉ソーシャル・ビュー体験で見つけた互いの見方や表現のよさについて伝え合う場面を設け、相互の違いのよさに気付けるようにする。

◆は生徒指導の機能を生かした授業づくりの手立て

	主な活動(・)と発問(○)	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価
導入	1 アンケートの結果を確認する。 ・ソーシャル・ビューについての動画を見る。 他者と生きていくために大切なことは何だろうか。	・見えなくても面白いのだろうか。 ・自分と見え方が違う。 ・鑑賞できるのか。	・アンケート結果を提示し、友達との関わり方についての問題意識を高められるようにする。 ・ソーシャル・ビューについての動画を見ることで、教材への関心を高める。また、共生について考える手立てとする。
展開	2 教科書を読み、話の内容を確認する。 ・教師の範読を聴く。 ○筆者はソーシャル・ビューのどんなところにおもしろさを感じたのだろうか。(PW) 3 ソーシャル・ビューを体験し、一人一人の感じ方の違いのよさについて考える。 ・作品を1つ選び、タブレットで鑑賞する。 ○友達の実現でよかった、面白いと感じたことをタブレットで入力して伝えよう。(GW) 4 共生について考える。 ○一人一人の違いが生きる社会には、どんなよさがあるだろうか。(GW→全体)	・見ている物は同じでも、人によって見方が違う。 ・見える人と見えない人が一緒になって、頭で作品を作り上げること。 ・何かを一緒にやることで違いが生きること。 ・頭の中に具体的な映像が浮かんだ。 ・自分とは違う見方をしている面白かった。 ・見えない人が作品を想像しやすいよう、言葉を考えて伝えた。 ・自分の居場所があるから生きやすい。 ・誰もが大切だという安心感がある。 ・色々な違いがあるからこそ自分のよさが見える。 ・自分とは違う見方を知ることができる。	・ICT機器で発問を提示し、考える内容を明確にする。 ・教材文からの引用だけで答えさせるのではなく、どうしてそのことがおもしろさになるのかを考えられるようにする。 ◆GWの中で全員が発表する機会を確保し、相槌を打ちながら聞きあったり、付箋紙に書かれたよさを読んだりすることで、自分の意見が価値のあるものだという実感をもてるようにする。 【存在】 ◆相手の表現の面白さ、自分との違い、分かりやすさなどをタブレットで入力して読み合うことで、互いの違いのよさに気が付けるようにする。 【共感】 ◆書く時間を十分に確保することで自信をもってGWや発表ができるようにする。 【決定】 (評) 生きやすさや安心感など、相互に個性や立場を尊重し合いながらよりよく共生していくことができる社会の実現に着目した発言や記述があったか。
終末	5 本時のまとめをする。 ・「共に生きる」社会のために自分が何をできるか考える。	・個性が生きる。 ・障害のある人を助けてあげようではなく、一緒に活動し、物事を楽しむという気持ちをもった関わり方をする。	・ポートフォリオに授業後の感想を書くよう促す。